

# 全仏

ZENBUTSU



# 483

仏暦2545年11月 (2002年)  
財団法人 全日本仏教会  
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



本願寺築地別院で行われた教化セミナー (関連記事2、3頁)

**都道府県仏教会代表者会議  
財政検討委員会**

# 教化セミナー

## 「公益法人見直しのなかで

### いま、お寺の在り方を考える」(上)

#### 現代の寺院と僧侶は何をすべきか

十月三日午後二時より、本願寺築地別院講堂で、本会主催の教化セミナーが開催され、各加盟団体より百三十名が参加した。

今回は、「公益法人見直しの中で、いま、お寺の在り方を考える」をテーマに、中野東禅師(曹洞宗総合研究センター講師)、野生司祐宏師(財)全国青少年教化協議会事務総長)、長谷川正浩師(本会顧問弁護士)をパネリストに迎えた。

そして、政府の公益法人見直しの動きの中で、現代のお寺の運営に携わる寺院住職としての在り方、また、一仏教者として、僧侶の在り方を再考し、それぞれの実践的立場から



パネリスト 中野東禅師

提言が行われた。

今号では、中野東禅師の提言を要約し掲載する。  
(文責 社会部)

政府の行政改革本部の案(朝日新聞二〇〇二年五月二十八日付)には、公益法人・宗教法人等の在り方として、①許認可制を廃し、届け出による「順則主義」とし、②情報公開による国民監視の制度化と、③税制上の優遇措置の見直しをしようとしているという情報がある。こうした動きの中で、仏教の寺院・僧侶は何をすべきかということが、今回のテーマである。

#### I 問題の背景として

こうした社会的要求の背景は「グローバルゼーション時代の宗教」に原因があると考えられる。それは、「世俗化」、「価値多元化」(選択可能なもの)を内容とする。

①伝統宗教は、イエ・檀家制度などの共同的・公共的宗教が主流であったが、新宗教との競合・共存を経て、新々宗教の破壊的カルトの反社会的信仰形態および反社会的経済活動が広がり、それに対して伝統宗教が防波

堤の機能を果たし得なかった。社会は、伝統宗教と新々宗教も同格と見なしていることの意味を見直していかなければならない。

②伝統宗教は、公共性のある聖性をもつと考えられていたが、「布施」と「寺院経済」の私物化が進み、寺院内の「家族」の世俗化が進行していた。

③文化のグローバル化とは、世界の民主主義化、世界経済、文化の流通、科学思想の共有、人権思想の共有化などで、様々な価値観や文化思想が拡がった。これらの人間思想の普及が宗教的絶対性を相対化し、その上、新々宗教の「反社会的な個人主義的信仰形態」が世俗の「自由主義」と対立しはじめている。

以上のような状況への対応として、日本の世俗社会から「情報公開」と「優遇税制の見直し」の要求が出てくることは当然の成り行きかもしれない。

#### II グローバリゼーションと寺院仏教とは

##### ① 共同体の宗教から宗教の私化へ

葬祭は、イエ・親族・地域の「イエ共同体」を中心に組織されたアンデントエイの根拠存在論、問題解決学、精神と文化の共同体であった。しかし、核家族も解体しつつあり、夫婦の死後離婚はすすみ、自然葬、短期契約型納骨、葬儀抜き納骨など「葬祭の共同体から私化へ」「解体と再編」が進んでいる。

都市部の檀家で「菩提寺・檀家」の意識が崩れつつあり、葬儀社関係の寺院に葬式・受戒・戒名付与をしてもらって、納骨だけ菩提寺へきた事例がある。また、家族がそれぞれ異なる宗教をもち、菩提寺へ葬式を依頼しながら、家族の意志統一が混乱している事例がある。

一人子同士の結婚で娘のイエの死者祭祀継承が困難になり、現在の母親が死亡後無縁化したり、娘の婚家先で共葬したりする事例が始めている。

## ② 宗教の公共性から私的信仰へ

国家神道への反省から政教分離が行われたが、自虐的政教分離と真の民主主義の未成熟の嘘について宗教団体による世俗権力の利用が公然化していった。

それによって、公共の場合への「伝統宗教」の活動がますます制限されつつある。マスコミの宗教コーナーは、宗教色を薄めたり、スペースを減らしている。一方「新々宗教」の会員は、イエ共同体を破壊して私的信仰への動きは止まらない。

## ③ グローバル化は世俗化論とは限らない

伝統的な宗教では、寺院離れ、先祖離れ、檀信徒レベルでの宗教的文化の衰退、寺院の宗教活動における講や、集会活動の後退などに「世俗化」が顕著である。

全 一方、イスラムの新しい勃興・カトリック

の復活・新々宗教の興起、風水学や古い・靈感商法に連なる新々宗教の靈魂観などの「アニミズム」の復興、初詣などの「文化宗教」などの拡大は「世俗化」と相反する動きである。このことは、国民の宗教感情の再編成の動きと言えるであろう。

## ④ 地域文化から「普遍的個」へ

共同体に依存した宗教はまだまだ続くと思うが衰退傾向にあることは否めない。「普遍化を横軸」と考え、特殊性である「私化を縦軸」とすると、その接点は「個」である。

しかし、個人主義は共同体の枠組みの中でも個の主張としての個人主義であった。その意味で、グローバルバリズムの中では、個人主義的「個」は普遍的アンデンテイの確立には成り得ない。なぜなら、個人主義や私的宗教は、その個人の所属する文化や、個人の性格、感性、情緒を絶対化しようとして、他の個人・他者の価値観と衝突し、共感できる仲間とだけグループ化して、そこに閉じこもること最終的に、価値多元化時代に共存できなくなるからである。

## Ⅲ 現代の寺院の在り方を考える

### ① 守る活動から獲得する宗教活動へ

既成の枠内の活動は先細りの一方だが、新規会員を開発する活動は寺院をも変える。檀家を基礎構造とし（守る）、スカウト、坐禅会他の布教活動（獲得）が寺院の維持になら

なかったのが、この半世紀の反省だ。基礎会員と獲得会員の連動を。或いは、新規檀家信徒を開発・獲得する活動をしている寺院は活性化している。

### ② 宗教活動への信徒の参加を

僧侶と寺院内の人々の社会からの遊離、「檀家の私物化」意識を解放する力になる。

③ 悟り、仏の功德、救済を言語化し具体化する。

基本戒名は、「無条件な仏の許し」として明確化する。内心的葬祭を志向して「唯心の御霊、己心の先祖」へ。

先祖祭り葬祭が「共同体」と「アニミズム的靈魂観」に基づいていることを考えると、イエや霊を「唯心」とすることで、実体化から開放した豊かな解釈を可能とし、世俗化や私化する動きの人々に合わせられる。

また、仏教と葬祭が連動しやすい地盤をつくることができるし、靈魂観念を否定することなく、教学仏教と一体化を可能ならしめるであろう。

結論として、情報公開と優遇税制見直し、

その他の価値多元化時代（多宗教の共存、世俗価値と宗教価値の共存）に伝統仏教の再生は、以上の①、②、③の活動が、広く試行錯誤されていくことで「内部努力」と「社会の信頼」が相応し、活性化するであろう。

以上

# 都道府県仏教会代表者会議

十月三日、午前十一時半より、本願寺築地別院「瑞鳳」で、都道府県仏教会代表者会議が開催された。

小林正道事務総長を導師に三帰依文唱和・開会挨拶の後、出席者・事務局紹介。その後、横山敏明神奈川県仏教会会長を座長に選出し、議事が進められた。

事務局より協議事項に先立ち、報告事項①を行うように提案があり、承認された。

**報告事項① 第三十八回全日本仏教徒会議 新潟大会報告**

新潟県仏教会、春日浩三副会長、小林秀徳事務局長より、昨年十月十～十一日の両日、新潟県長岡市で開催された、第三十八回全日本仏教徒会議の報告が詳細になされた。

**協議事項① 第三十九回全日本仏教徒会議 開催について**

次回開催について意見を求め、具体的に開催候補地を募ったが、その場では意見が出ず、今後事務局より個別に折衝を行うことになった。新潟県仏教会代表者から、大会開催が都道府県仏教会にとって有意義であることが述べられ、以前のごとく毎年開催が実現するよう要請された。

**報告事項② 第二十二回WFB世界仏教徒会議マレーシア大会について**

渡邊宗徹国際文化部長より、本年十二月に開かれる会議の日程等が説明された。続いて櫻井英幸総務部長より、本会主催の参加ツアーの概要について説明され、参加協力が要請された。

**報告事項③ ルンビニー園マヤ堂復興事業の現状について**

渡邊国際文化部長より、マヤ堂復元工事、考古学調査報告書作成、ネパール側への遺物の返還作業の進捗状況について現況報告と、質疑応答が行われた。

※ここで事務局より、岐阜県仏教会から報告・依頼事項が有る旨提案があり、承認された。  
**報告事項④ 「こころの日」推進運動について**

岐阜県仏教会、寺町研山会長より、昭和六十三年の第三十三回全日本仏教徒会議岐阜大会での、四月八日釈尊降誕の日を「こころの日」として国民の祝日という決議に基づき、運動を継続していることが報告された。現在、毎月八日をハートフルデーとして、運動を継続拡大している旨説明され、運動への協力が

## 岐阜県仏教会

毎月八日は

「こころの日 推進運動

（お仏壇を中心として）「こころ」を伝えよう

岐阜県仏教会では、毎月八日を「こころの日」とし、宗教家・壇信徒会を中心に推進をはかっております。

この運動を通して、お仏壇を中心とした、懐かしい、暖かい、もったいない、ありがたい家庭づくりを進めてまいります。

この運動のご賛同者を募集しております。詳しくは、左記連絡先へご連絡下さい。



「毎月八日は、こころの日」推進ポスター 岐阜県仏教会

〒500-8882 岐阜県岐阜市西野町三二-1  
岐阜西別院在会所 西側入口  
岐阜県仏教会  
電話 ○五八二六〇七八〇三

要請された。(本号別掲記事参照)

報告事項⑤ 最近の税務、宗教法人法の諸問題について

長谷川正浩本会顧問弁護士より、寺院墓地運営上の留意点、寺院備え付け・提出書類の情報開示の問題点などについて説明された。

報告事項⑥ 事務総局各部署報告

以下の項目等について各担当部長から報告され、協力が要請された。

一、平成十四年度、日本宗教連盟理事に森和久理事長、監事に小林正道事務総長、幹事に櫻井英幸総務部長が就任した。

二、本会の円滑な運営のため、財政検討委員会が設置され、九月二十七日に第一回委員会を開催。次回は十月二十四日開催予定。

三、文化庁の指導のもと、現在一六八人の本会評議員の削減を検討中。

四、本会活動の広報のため、理事会・評議員会等のマスコミへの公開方法について検討中。

五、副会長増員選任のため、推戴委員会開催を準備中。

六、臨済宗天龍寺派が六月六日退会した。

七、過日のヒアリングを受け千鳥ヶ淵戦没者墓苑の改修案決定の通知が厚労省より到着。

八、文化庁主催、宗教法人実務担当者研修会(九月四日・於 名古屋)に本会より櫻井総務部長が出席

九、日本宗教連盟主催のシンポジウム「宗教と税制」が十一月二十六日、明治記念館で開催予定。参加依頼がなされた。

十、同和研修会が、十一月八日(金)午後一時～四時まで、真宗大谷派真宗本願視聴覚ホールで開催予定。桃山学院大学名誉教授、沖浦和光氏が「日本文化の源流をたずねて～日本民族はどこから来たのか～」をテーマに講演。参加者を募集している。

十一、信教の自由に関する委員会で、靖国神社と戦没者の追悼について議論が進められている。政府懇談会の議論の進捗状況を見て今後対応する。

十二、加盟団体機関誌への本会行事掲載依頼を継続して行い。協力を依頼する。

十三、自民党など政党からの、選挙協力依頼について、理事会決定で推薦は現在行っていないが、本会に推薦依頼があった旨の、加盟団体への情報提供は行い。

十四、(財)国際仏教興隆協会より護持委員拡充協力の依頼が本会宛にあった。

十五、仏教系NGOネットワークが今秋設立。

十六、(財)シャンティ国際ボランティア会のアフガンにおける支援の現況が報告された。

ルンビニー園マヤ堂修復事業 篤志支援者御芳名

(社)全日本仏教婦人連盟様	金、 壹百萬円
法融寺	金、 十萬円
法清寺	金、 十萬円
光明寺	金、 五十萬円
萬福寺	金、 五十萬円
照栄院	金、 十萬円
龍泉寺	金、 十萬円
信松院	金、 十萬円
佛敎大学	金、 十萬円
佛敎大学 佛敎青年会様	金、 十萬円
高福院	金、 壹百萬円
妙高寺	金、 五十萬円
慈眼寺	金、 五十萬円
慈眼寺 櫻井英幸様	金、 五十萬円
西新井大師總持寺 濱野堅照様	金、 五十萬円
浄運寺	金、 十萬円
長慶寺	金、 十萬円
善林寺	金、 十萬円
羅漢寺	金、 十萬円
圓通寺	金、 十萬円
金剛院	金、 十萬円
實相寺	金、 十萬円
近龍寺	金、 十萬円
月鳥テレビ商會様	金、 十萬円
立正保園様	金、 十八萬六千円
全昌院	金、 參萬円
西有寺	金、 壹百萬円
明順寺	金、 五十萬円
能仁寺	金、 三十萬円
萩野映明様	金、 三十萬円
加納博司様	金、 三十萬円
妙本寺	金、 五十萬円
豪徳寺	金、 壹百萬円
法蔵院	金、 五十萬円
善光寺	金、 十萬円

※篤志の振込先口座番号(郵便振替) 〇〇一三〇一六一三七六〇〇  
加入者名(財)全日本仏教会  
ルンビニー園復興協力金と明記下さい  
※本件に関するお問い合わせ 全日本仏教会国際文化部  
電話 〇三三四三七一九二七五

## 信教の自由に関する委員会

九月十九日午後一時半より、明照会館会議室で、第四回信教の自由に関する委員会が開催された。小林正道事務総長の挨拶に続き、小山典勇委員長を議長に議事が進められた。靖国神社問題と、国立戦没者追悼施設（仮称）等の問題に関し議論された。事前に委員長・事務局が整理し委員宛に配布された、今までの議論の整理と、委員長・事務局作成の政府への意見具申書素案の提出の可否等について、活発に議論が進められた。

委員より、意見を個別に評価することにはあまり意味が無く、かえって都合の良い点のみを利用される危険があるという指摘が出された。また、政府官房長官主催の懇談会での議論が現在停滞しており、今後どういう方向に進むかを見極めて対応すべきであるという意見が大勢を占めた。

検討の結果、現在の状況下で政府に対して意見具申するのは控え、政府の懇談会等の状況を見極めて委員会を招集し、その時点で改めて対応を検討することになった。また、現時点までの意見を集約した上で、理事長へ報告することになった。

## 財政検討委員会

九月二十七日午後一時より、明照会館会議室で十四名の出席を得て、第一回財政検討委員会が開催された。

初めに、森和久理事長の挨拶の後、各委員へ委嘱状が伝達された。仮議長に森理事長を選出し、正副委員長選出を行い、委員長に瀬古眞隆師（臨済宗妙心寺派）、副委員長に井桁雄弘師（大阪府仏教会）が選出された。

協議事項に移る前に、財政検討委員会について、小林正道事務総長より主旨説明が行われた。

「今般、宗教法人に対する厳しい目、或いは期待する声がある。本会の、今後の方向性や財政全般を検討する委員会の設置を望む声が、常務理事会・理事会からあがった。この財政検討委員会は、限られた負担金の枠内で、いかに、より充実した事業を遂行するかを検討していくことが第一である。」と基本姿勢が述べられた。

続いて協議事項に移り、以下の四事項について協議した。

一、一般会計における負担金の適正について  
①事務所模様替えについて

②各種委員会の出向経費（手当・交通費等）を所属宗派及び団体で負担することについて

③その他

二、特別会計の見直しについて

三、財産管理について

四、その他

様々な意見交換が行われ、次回十月二十四日に第二回財政検討委員会を開催することが決定した。

## 長野県仏教徒大会

平成十四年九月十三日、長野県須坂市文化会館で、第四十八回長野県仏教徒須高大会が開催された。本会から、森和久理事長、壽山良光社会部長が出席した。

午後一時から、小松玄澄長野県仏教会会長を導師に記念法要が厳かに営まれた。続く式典では、森理事長が来賓祝辞を奉読。

休憩を挟んで、成田有恒浄土宗大本山増上寺法主が「心ある智慧」をテーマに記念講演を行ない、会場を埋めた聴衆は、熱心に耳を傾けていた。

最後に大会宣言文が主催者より発表され、次回開催地の会長の挨拶をもって閉会となった。多くの参加者のもと盛会であった。

# ハワイ国際仏教協会

## 初転法輪際

九月十三日、ハワイ国際仏教協会 (Hawaii Association of International Buddhists、略称H A I B) 主催の初転法輪祭がハワイ、ホノルルのアラモアナパークで開催された。招待をいただき、本会からは小林正道事務総長・入西智彦国際文化部次長が出席した。

ハワイ国際仏教協会 (H A I B) は、日本仏教の各開教寺院によって運営されるハワイ仏教徒連盟、タイ・台湾・ベトナム等各国の仏教団体等によって構成されており、ハワイ国際仏教協会創立十周年を記念する本年の初



祝辞を述べる小林正道事務総長

転法輪祭には約二百名の仏教徒が参加した。式典は午後六時三十分、太鼓の演奏と共に開始され、ハワイ国際仏教協会会長アルバート・ルイ氏の開会挨拶、小林事務総長の祝辞に続いて、英語による経典の読誦、記念公演、仏教演劇の上演等が行われた。その後、参加者全員により、昨年九月十一日に発生した同時多発テロ事件の被害者追悼のためのキャンドルライトサービスが執り行われ、午後九時頃終了した。様々な民族出身の仏教徒が一堂に会し、国際色豊かな式典となったと思われる。

また、このホノルル滞在中には、ハワイの曹洞宗・浄土真宗本願寺派・真宗大谷派・浄土宗・日蓮宗・高野山真言宗・天台宗の各開教寺院及び、W F B ハワイ地域センター代表のスナオ・ミヤバラ氏を訪問し、ハワイの宗教事情、開教区の状況等について懇談、情報交換も行った。

### 無料法律相談室

長谷川正浩弁護士による、無料法律相談室を毎月第二・第四木曜日に開催しております。相談をご希望される方は、本会事務局 (〇三三四三七一九二七五) へ、事前予約の上おいで下さい。

### 第二十二回WFB世界仏教徒会議 マレーシア大会記念ツアー参加者募集

第二十二回WFB世界仏教徒会議が、本年十二月九日より、マレーシアのクアラルンプールで開催されます。WFB (世界仏教徒連盟) とは、世界各国百四十地域センターが加盟し世界の仏教徒との交流親善をはかり、世界平和に貢献することを目的としております。

本会では、この大会の記念ツアーに参加される方を募集いたします。参加者は、大谷光真会長と共に、世界各国代表団が一同に集う開会セレモニーに参加を予定しております。

つきましては、左記の要領にて実施いたしますので、皆様お誘い合わせの上ご参加ください。

#### 記

- 主催 財団法人 全日本仏教会
- 旅行日時 十二月八日(日)～十三日(金)
- 五泊六日 成田発
- 場所 マレーシア
- クアラルンプール・ペナン島
- 参加費用 一六八、〇〇〇円
- 定員 五十名 最少催行人数二十名
- 締め切り 十一月七日(木)
- 利用旅行社 (株)JTB団体旅行 東京中央支店
- お申し込み・お問い合わせ
- 財団法人 全日本仏教会 担当 小島・江口
- 〒一〇五〇〇〇一
- 東京都港区芝公園四一七ー四 明照会館内
- 電話 〇三三四三七一九二七五
- FAX 〇三三四三七三三六〇

# 事務局録事

九月(十一～三十日)

- 十一月 永平寺被差別戒名追善法要参列
- 十三日 長野県仏教徒大会出席
- 十二～十六日 ハワイ国際仏教協会初転法輪祭出席
- 十七日 同和委員会
- 十八日 浄土真宗本願寺派千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要参列
- 十九日 信教の自由に関する委員会
- 二十五日 日宗連事務局幹事会出席
- 二十六日 局内会議
- 法律相談室
- 二十七日 財政検討委員会
- 二十九～十月三日 ローマ教皇庁仏教徒・キリスト教徒宗教間対話出席
- 十月(一～十一日)
- 三日 都道府県仏教会代表者会議 教化セミナー
- 七日 同宗連教団行政責任者研修会出席
- 八日 同和委員会
- 十日 法律相談室
- 現代教化フォーラム出席
- 十一日 埼玉県佛教徒大会出席

## 哀悼

- 鎌田憲英師(全仏元常務理事)
- 九月二十日遷化 百一歳
- 日本宗教連盟元理事長
- 浄土真宗本願寺派元宗会議長

## 全日本仏教会

### 同和研修会のご案内

日時 十一月八日(金) 午後一時～四時まで  
 会場 真宗大谷派真宗本願視聴覚ホール  
 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町七五四  
 京都駅烏丸口より徒歩五分

内容 一、講演「日本文化の源流をたずねて」  
 ～日本民族はどこから来たのか～  
 講師 沖浦 和光氏  
 (桃山学院大学 文学部名誉教授)

二、ビデオ『寝た子を起こすな』  
 ～その差別性を問う～  
 解説 深澤 信善師  
 (曹洞宗人権擁護推進本部事務局長)

参加費 無料  
 ※前号で参加費を千円とご案内いたしました  
 が、無料参加となりました  
 申込み・問い合わせ  
 全日本仏教会事務局同和推進部  
 電話 〇三(三四三七)九二七五  
 FAX 〇三(三四三七)三二六〇

### お願い

全仏誌ご送付先の郵便番号、住所、氏名等に変更ある場合、事務局までご連絡をお願い致します。帯封でご送付の場合、帯封記載の送付番号もお知らせ下さい。

## 財団法人 日本宗教連盟

### 第十九回 宗教と税制シンポジウムのご案内

テーマ 「宗教団体と税制」  
 —公益法人制度改革をふまえて—

主催 財団法人 日本宗教連盟

日時 平成十四年十一月二十六日(火)  
 十三時三十分～十六時三十分

会場 明治記念館 二階「鳳凰の間」  
 東京都港区元赤坂二丁目二十三  
 電話 〇三(三四〇三)一一七一

日程 講演Ⅰ「公益法人改革と税制」  
 講演Ⅱ「公益法人改革の現状と課題」

参加申込 FAX及び郵送にて本会までお申し込み下さい  
 〒105-0011 東京都港区芝公園四一七一四明照会館内  
 全日本仏教会事務局総務部  
 電話 〇三(三四三七)九二七五  
 FAX 〇三(三四三七)三二六〇

### 記

本年六月(全総発二四号)で各加盟団体宛にご案内させて頂きました、文化庁主催の宗教法人実務研修会、京都府開催の日程及び会場が左記のとおり変更となりました。

変更前 十一月一日 京都府総合交流プラザ

←  
 変更後 十一月十九日 リーガロイヤルホテル京都  
 ※九月二十六日付、各加盟団体宛に発送済